

## 3-1 and 以外の等位接続詞 (その1)

### — but の基本用法①

#### 英語の「逆接」とは？

and 以外の等位接続詞として、まず but を取り上げます。but は「文と文」はもちろん、and 同様、「語」や「句」も結ぶことが可能で、その表す意味は「しかし」に代表される「逆接」といわれます。「逆接」とは文字通りには前と逆の内容を後につなげるわけですが、それだけでは英語の逆接表現についての理解として十分とはいえない側面があります。特に but の場合は (2-9 でその一端に触れましたが)、

「but 以下はこれまでの内容・予想とは異なることが続く」  
⇒ 「but 以下のことは前から切り離して [除外して] 考えよ」

という意味であることをしっかり自覚する必要があります。

(1) He is still young and inexperienced, **but** he is talented.

「彼はまだ若いし経験不足であるが、しかし才能がある」

彼は「まだ若くてしかも経験不足」なら、当然「彼はダメだ」ということになるはずですが、but 以下は「ただし (それとは異なり) 彼には才能がある」という内容で、but の前から予想される流れを否定し、「才能がある」を前から切り離して [除外して] 考えよと、but 以下にフォーカスを当てる働きがあるといえます。

このことから必然的に but 以下には「話者・筆者が注意すべきこと・重要だと考えていること」が来ることになり、当然、「意味の重点」が置かれます。英文を読む際の重要事項の1つです。

(2) What really counts is not innate talent, **but** hard work.

「本当に大事なことは生来の才能ではなく、勤勉な努力である」

☞ 名詞と名詞：hard work に重点

これは、not A but B で一般に「AではなくB」とされる用法ですが、ここでも「本当に大事なことは生来の才能ではない。(では何なのか？ それは) 勤勉な努力である」という形で hard work に意味の重点が置かれています。

(3) I wanted to build a time machine **but** couldn't find the technology.

「タイムマシンを作りたかったが、その技術を見つけることができなかった」

☞ 動詞と動詞：技術を見つけられなかったことに重点

(4) He is quite smart **but** sometimes lazy.

「彼はなかなかの切れ者だが、怠け癖がある」

☞ 形容詞と形容詞：lazy に重点

次は少々長い文ですが、but は「文と文」をつないでいます。

(5) If we considered science as much as 6000 years old, that would be a very long time compared to the life span of a person, **but** it would be a very short period compared to the life span of a planet like our earth. Certain scientists estimate that our earth is now more than a billion years old. In terms of such a time span, 6000 years ago seems very recent!

「科学は6千年も前に誕生したと考えれば、人の寿命に比べて非常に長い期間となるが、しかし、地球のような惑星の寿命と比較すれば、ごく短期間であろう。一部の科学者の計算では、地球誕生

は今や10億年よりも前である。そうした観点からすると、6千年前などというのはごく最近であるように思われる」

【注】 compared to ～と比べると time span 寿命

この文でも、**but** の直前で「科学が始まったのは人間の寿命から見たらはるか昔の6千年も前、つまり科学が始まったのは大昔」といっておいて、「しかし、地球の寿命と比べれば、科学が誕生したのはつい最近」という内容が続いています。当然この部分が重要な情報であり、この後 (Certain scientists 以下) ではそれに即した形で筆者の主張する内容が続いて述べられていきます。

また、2つの文を切り離して、**but** を文頭に置くことがあります。

- (6) Modern science can explain a great deal about the world we live in. **But** there are also numerous facts that have not been explained by science, or at least not explained fully.

「現代科学は我々の暮らす世界に関する多くを説明することが可能である。しかし、科学では説明されてこなかった、少なくとも十分な説明はされてこなかった多くの事実もまた存在するのである」

**but** をこのように文頭に置くのは避けるべきという意見がありますが、実際にはフォーマルな文でも使用例が多く見られます。

### まとめ

- **but** の「逆接」とは、「**but** の前から続く流れを除外せよ」という意味

☞ **but** 以下が重点であることを意識する

## 3-2 and 以外の等位接続詞 (その2)

### —— **but** の基本用法②

#### 1 「前置詞」であっても **but** の意味は消えず

前項で **but** の逆接とは「**but** 以下の内容をその前から除外して考える」という意味であることをお話ししました。

**but** には「等位接続詞」の他に、「～を除いて、～以外」という「前置詞」としての用法があることをご存知の方もいらっしゃると思います。ただし、この用法は **all/any/every** や否定表現、あるいは最上級や **the+序数** のような語句が前に来る場合に限定されます。

- (1) **All but** one was dead.

「一人以外は全員死んだ」

この「～を除いて、～以外」という訳語は接続詞の場合の「逆接」と何の関係もないように思われるかもしれませんが、しかし、よく考えてみれば、「～を除いて」には「(しかし) ～は違う、～以外は除外する」という逆接の意味がそのベースにあります。さらにいえば、**but** 以下に重点が置かれる点も接続詞の場合と同じです。

- (2) I can trust **no one but** you.

「誰も信用できない、でも君は別だ」⇒「信用できるのは君だけ」

- (3) He is **nothing but** a poet.

「彼は何者でもない、ただ詩人ではある」⇒「詩人にすぎない」

- (4) I can eat **anything but** escargot.

「僕はなんでも食べるよ、ただし、エスカルゴはダメだ」

⇒「エスカルゴだけは勘弁して」